

復活節第2主日特祷

全能の父よ、あなたはわたしたちを罪から救うため、独りのみ子を死に渡し、また義とするためによみがえらせてくださいました。どうか悪意とよこしまのパン種を除き、常にまことの信仰と清い行いをもってあなたに仕えさせてください。主イエス・キリストのいさおによってお願いいたします。アーメン

旧約聖書 イザヤ書26章2節-9節, 19節

26:2 門を開け、真実を守る正しい国民が入ることができるように。3 志の堅固な者を、あなたは確かな平安をもって守られる。彼があなたを信頼しているゆえに。4 主をどこまでも信頼せよ。主こそとこしえの岩。5 主は高い所に住む者たちを引き下ろし、そびえ立つ町を低める。それを地まで低くし、投げつけて塵とされる。6 足がそれを踏みつける。貧しい者の足と弱い者の歩みが。

7 正しき人の道は平坦であり、正しき人の道筋を、あなたはまっすぐにされます。8 主よ、あなたの公正の道で、私たちはあなたを待ち望みます。あなたの名を呼び、あなたを思い起こすことが、私たちの魂の望みです。9 私の魂は夜にあなたを慕い、私の中で霊があなたを捜し求めます。あなたの裁きが地上で行われるとき、世界に住む人々は義を学びます。

あなたの死者は生き返り、私の屍は立ち上がります。塵の中に住む者よ、目覚めよ、喜び歌え。あなたの露は光の露、地は死者の霊に命を与えます。

日課詩篇 第118篇 19~24節

19 正義せいぎの門もんよ、扉とびらを開けひら // わたしは中なかに入はいって主しゅに感謝かんしゃを献ささげよう

20 これは主しゅの門もん // 正ただしい人ひとはここから入はいる

21 わたしはあなたに感謝かんしゃする // あなたはこたえてわたしを救すくわれた

22 家造りの捨てた石いしが // 「隅すみのかしら石いしとなった

23 これは主しゅのみ業わざ // 人ひとの目めには不思議ふしぎなこと

24 今日きょうこそ主しゅが造つくられた日ひ // この日ひをともに喜よろこび祝いわおう

使徒言行録 3章12節 a, 13節—15節, 17節—26節

3:12a これを見たペトロは、民衆に言った。13 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、私たちの先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとしていたのに、その面前でこの方を拒みました。14 聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。15 あなたがたは命の導き手を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。私たちは、そのことの証人です。

17 ところで、きょうだいたち、あなたがたがあんなことをしてしまったのは、指導者たちと同様に無知のためであったと、私には分かっています。18 しかし、神は、すべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦しみを、このようにして実現なされたのです。使徒 3:19 だから、自分の罪が拭い去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために定めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださるのです。21 このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなる時まで、天にとどまることになっています。22 モーセは言いました。『あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中から、私のような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え。23 この預言者に聞き従わない者は皆、民の中から滅ぼし絶やされる。』24 預言者は皆、サムエルをはじめその後に預言した者も、この日について告げています。25 あなたがたは預言者の子であり、神があなたがたの先祖と結ばれた契約の子です。神はアブラハムに、『地上のすべての氏族は、あなたの子孫によって祝福される』と言われました。26 それで、神はご自分の僕を復活させ、まず、あなたがたのもとに遣わしてくださったのです。それは、この方があなたがたを祝福して、一人一人を悪から離れさせるためでした。」

福音書 ヨハネによる福音書 20章19節—31節

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。20 そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主

を見て喜んだ。21 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」22 そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。23 誰の罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

24 十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。25 そこで、ほかの弟子たちが、「私たちは主を見た」と言うと、トマスは言った。

「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れなければ、私は決して信じない。」26 八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」28 トマスは答えて、「私の主、私の神よ」と言った。29 イエスはトマスに言われた。「私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである。」

30 このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じて、イエスの名によって命を得るためである。